

2023 年度 自己点検・自己評価報告書

2024 年 6 月 30 日作成



21世紀アカデメイア
Akademeia 21st Century

専門学校 **名古屋ビジネス・アカデミー**

(2024年4月 名古屋スクール・オブ・ビジネスより校名変更)

1 学校の教育目標

社会や経済の国際化・情報化が加速し、AI化やロボティクス化による第4次産業革命が進んでいくと言われておりますなか、学生たちが時代の変化に対応し、人生100年時代を生き抜き、業界で活躍する力をつける学校教育が強く求められています。

専門学校名古屋スクール・オブ・ビジネス（2023年度。2024年度より専門学校名古屋ビジネス・アカデミーに校名変更。以下、本校）は、学校法人Adachi学園（2023年度。2024年度より学校法人21世紀アカデミアに学校法人名変更。以下、本学園）の理念である「より多くの学生に心のふれあう場を提供するとともに、一人ひとりの人間力を向上させ最大の満足を提供する」を踏まえて、業界・企業との連携をもとに実践的な教育を行い、社会人としてふさわしい人間力と専門分野で力を発揮できる人材育成を目標としてきました。人材輩出業界としてペット、愛玩動物看護、ビューティー、IT、マスコミ、経営・事務の6分野を想定した6学科を設置（2022年度）しております。

業界企業さま方が求める「専門性と人間力を兼ね備えたバランスのいい人材」の育成を目指し、職業実践専門課程認定校として企業との連携強化に努め、カリキュラムの改善や教育イベントの充実を図ってまいりました。1984年に設立、40周年を迎える専修学校として、卒業生と在校生、入学予定者（AO生）一人ひとりが、本校での在籍によって各業界で活躍できる人材に成長し、豊かで幸せな人生を歩むこと、連携いただいております各業界・企業さまの発展、地域社会の利益・幸せに貢献することが、本校の社会的役割であると考えております。

2 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

本学園で重点を置いている指標は、①学生募集 ②継続率 ③進路決定 であります。授業や実習、行事イベント、日々の学生サポート、就職活動サポート等を通じて、在籍する学生の高い満足度を図り、それを実現する学校運営を徹底することで各学科・学校の価値を上げる。ひいては次の学生募集に繋がっていくと考えております。

- ① 2023年度出願数は定員に対して81%（前年度97%）。学科によって充足度が異なる点が課題であります
- ② 1年から2年生への進級率は目標90%に対し84%、近年にない退学率となってしまいました。入学前からのメンタル要因等が増えている現状がありますが、学習意欲の低下、進路変更などの理由に関しては大きな課題ととらえております
- ③ 求職者に対する就職内定率100%（求職率97%）で、10年連続達成いたしました。キャリアコンサルタント等による「就職指導」と個別フォロー、1年

次 11 月に実施する就職活動スタートアップイベント「業界 EXPO」、専攻分野経験者である学科担当によるサポート、求人やインターンシップ先開拓ならびに求人情報システム「スタログ」など。業界就職率 91%に関しては、学科によって差がありますが、より改善していく所存です。

2023 年度より、本学園は田坂 広志氏を新しい学長に迎え“大学も専門学校も超える新たな学びの場”をめざし、学生たちが「5つのプロフェッショナル力」と「5つの人間関係力」を身につける「セブン・ステップ・カリキュラム」を導入いたしました。初年度として、富士五湖サミット、クロスオーバー・フライデー等を実施、在校生が実力をつけるとともに、満足度を高められるよう努め、募集広報としても展開してきました。2024 年度学生募集につきましては、入学定員に対し 91%の出願数という結果でした（2024 年度より入学定員数変更）。引き続き、在校生・卒業生の満足度を図り、学校と各学科の価値を上げ、それをわかりやすく募集広報することで、入学検討者や保護者の支持を集めていきたいと考えております。

3 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	1. 学校の理念・目的・育成人材像はさだめられているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4	3	2
2. 学校における職業教育の特色は何か	4	3	2	1
3. 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	3	2	1
4. 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・関係業界・保護者等に周知されているか	4	3	2	1
5. 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	3	2	1

学校の理念・業界のニーズ・育成人物像につきましては、新入生オリエンテーション、新入生合宿等で学生に周知いたしました。

新入生保護者会は5月に対面で実施、出席率は60%でした。学校方針や学生・就職サポート体制、メンタルヘルスセミナーなどを実施、保護者と担任が顔合わせさせていただき連携の意義をお伝えし、アンケートでは一定の評価をいただきました。

学生が志望する業界企業さまや職業実践専門課程等で連携いただく企業さまとのパートナーシップのもと、求められる人材について分析し、社会人基礎力を高める教育を引き続き重視してきました。AI やロボティクスが加速度的に進む今後の社会において、ビジネスで活躍できる力を、学校、エリアを超えクロスオーバーするなかから身につける方針である学園のセブン・ステップ・カリキュラムをおおいに活かし、本校学生たちが成長していけるよう進めてまいります。

本学園・本校の教育理念・方針をふまえて、学校の教育環境を整備するとともに、今後も企業連携科目を中心に、教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会での企業委員の方々からのご意見を頂戴し、職業実践専門課程認定校にふさわしい教育を実施してまいります。

(2) 学校運営

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	1. 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	3	2
2. 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	3	2	1
3. 運営組織や意思決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	3	2	1
4. 人事、給与に関する規定等は整備されているか	4	3	2	1
5. 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	3	2	1
6. 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	3	2	1
7. 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	3	2	1
8. 情報システム化等による業務の効率化がはかられているか	4	3	2	1

① 課題

評価項目 8. について

学生一人ひとりの情報に関して、取得単位数・資格、出席状況は成績管理システムにて管理。学生への連絡周知、オンライン配信授業や教育イベント（全国大会など）については、Microsoft Teams を活用。求人票や求人検索、就職活動内容をデータベース化した「スタログ for Recruit」、予算の執行時には学園稟議システム、人事評価には「カオナビ」システムを運用しています。ただし、卒業生についての情報管理は、依然できておらず、課題としております。

② 特記事項

運営方針・事業計画については、学園の方針・総意のもと、学校長と事務長、学園名古屋エリア事務局長、全国ビジネス系列校 4 校で協議しながら作成しています。

意思決定については理事会、議決機関としては、全国ビジネス系列校 4 校学校長がオンラインで協議する B 系統会議、名古屋姉妹校 4 校の学校長・事務局長を中心とした名古屋責任者会議があり、各毎週実施しています。

学内では、教職員が参加する定例学務ミーティングと担任会をそれぞれ毎週実施、学校運営に関する情報や学生状況（継続/就職活動進捗等）を共有

し、課題と取り組みを組織的に協議するようしております。

教職員の人事、給与に関する規定については、各人が定量・定性にわたる目標設定を学校長と協議のうえ設定、期末を前に達成進捗や振り返りを踏まえ、職務要件や給与テーブルに照らし合わせて次年度の昇給に反映される制度を整備しています。

情報公開に関しましては、学校のホームページで基本方針や学科の特徴・バリュー、カリキュラム、就職活動支援体制等を公開するとともに、職業実践専門課程認定校ならびに国の修学支援認定機関として、規定どおりの学校情報を公開しております。

(3) 教育活動

評価項目	適切・・・4	ほぼ適切・・・3	やや不適切・・・2	不適切・・・1
1. 教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	3	2	1
2. 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているのか	4	3	2	1
3. 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているのか	4	3	2	1
4. キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4	3	2	1
5. 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等がおこなわれているか	4	3	2	1
6. 関連分野における実践的な職業教育（産業連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	4	3	2	1
7. 授業評価の実施・評価体制はあるか	4	3	2	1
8. 職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	3	2	1
9. 成績評価・単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4	3	2	1
10. 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	3	2	1
11. 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	3	2	1
12. 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4	3	2	1
13. 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みがおこなわれているか	4	3	2	1
14. 職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	3	2	1

① 課題

評価項目 1 2. について

期中に専任教員の退職があり、それに伴って教員が異動せざるを得ない事態がありました。後期に後任者を採用し、担任が変わることとなった学科の学生たちが不利益を被らないよう、リーダーを中心にサポートいたしました。

質の高い授業を提供するためには、学科担当と非常勤講師との連携は必須であります。それを、学科担当が職務としてとらえ、双方でコミュニケーションを取りながら進める体制としています。

評価項目 1 3. 1 4. について

2023 年度の教員研修実績が組織的・計画的に実施できたとは言えない結果となりました。学科運営、担任活動、授業・実習の組み立て・準備・実施、非常勤講師マネジメント、学生面談、就職指導等に加えまして、コロナ禍の影響が続くなか学生の体調確認や授業出席管理、感染症対策等、学科担当の業務増大と効率化しづらいマルチ業務が依然として大きな要因であり、経年の課題となっております。

② 今後の改善方策

学科担当が、教育課程編成委員会や連携企業さまと協議しながら設計したカリキュラムを有機的に機能させていくためには、1 科目 1 科目を受け持つ教員（専任/非常勤講師）が科目の目的や趣旨、位置づけを理解し、学生の理解度やスキルアップを最大化できるよう熱意を持って授業を実施してもらうことが肝要だと考えております。そのマネジメントが学科担当の重要な職責である旨は、周知しているところです。

職業実践専門課程認定校として、教職員の研修（関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修/教員の指導力育成/職員の能力開発のための研修）を組織的・計画的に実施していかなければなりません。教職員個人が各専門分野や職務のスキルアップのための情報収集をして、積極的に研修に参加するよう改めて周知いたします。教職員が外部研修で刺激を受けて成長することこそ、授業や学務業務の質を上げられると肝に銘じ、教職員たちが自主的に学ぶ姿勢を持てる環境を整備いたします。オンラインによる研修等含め、検討してまいります。

③ 特記事項

カリキュラム、シラバス、資格検定対策、学科運営に関する目標や計画については、年度ごとに学科担当が策定。「カリキュラム編成シート」を作成し、業界企業委員で構成される年 2 回の教育課程編成委員会のご承認のもと、実施しています。企業連携科目を含め、産学連携による教育イベントにつきましては、全国系列姉妹校と協議しながら計画し、従来から実施しております業界 EXPO、トリミングコンテスト全国大会、全国ビジネスプランコン

テスト、オンライン留学プログラム等に加えまして、2023年度はITビジネス学科の成果物コンテスト「A-TECH コンテスト全国大会」を本校で実施いたしました。

本校では、全教員（専任/非常勤講師）が担当する全授業について、「授業計画書」を授業期の初めに提出。毎回の授業実施内容は「授業報告書」に記入し、共有できるようにしております。また、授業期ごとに担当教員の総括・要望をとりまとめ、授業の質の向上や改善に努めています。

刻々と変化していく「業界が求める人材」については、11-12月に実施いたしました「業界 EXPO」ご参画企業（2023年度実績 81社）や学内会社説明会を開催くださる企業さまより直にお伺いするとともに、愛玩動物看護学科・ITビジネス学科（単位認定）、ペットビジネス学科を中心にインターンシップをお願いしている企業さま方から、参加学生についての率直な評価を学科担当や就職指導担当がお伺いし学内で共有しております。また、カリキュラムや教育イベント、ゼミなどに反映しています。

授業評価につきましては、学生の「生の声」を聞くために、9月に「授業アンケート」を実施。アンケート結果について専任教員が共有し、現状の把握と授業内容・学校運営の改善に努めています。また、非常勤教員へのフィードバックを行い、改善や次年度継続可否の参考にしております。

成績評価および単位認定、進級・卒業認定については、「学則」および「学生心得・細則」（学生全員に配布する『学生便覧』に明記）に則り、厳正に行っています。『学生便覧』は、新年度開始時のオリエンテーションで学生たちに周知するほか、保護者会でも配布し説明、保護者のご理解を促しています。

(4) 学修成果

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	1. 就職率の向上がはかられているか	4	3	2
2. 資格取得率の向上がはかられているか	4	3	2	1
3. 退学率の低減が図られているか	4	3	2	1
4. 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	2	1
5. 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	3	2	1

① 課題

評価項目 2. について

資格検定につきましては、学科担任が担当講師と協議しながら、合格率を上げるべく当該年度も努めました。合格率が全国平均を超えたものは、サービス接遇検定準1級ロールプレイング、PC検定など。一方で、色彩検定、リテールマーケティング（販売士）、日商簿記検定は、全国平均レベルを大きく下回り、経年の課題であります。愛玩動物飼養管理士、基本情報技術者試験といった専門資格に関しても昨年度より合格率が下がっており、抜本的に指導や実施について検討する必要があると考えております。

評価項目 3. について

本校の1→2年生進級率は目標を90%としておりますが、当該年度は84.6%という結果でした。退学理由につきましては、メンタル事由等が増えているものの、学習意欲の低下、クラスになじめない・友人トラブル、進路変更など、学生満足度に関わる理由もあります。各学科担当がクラス担任として出欠席の管理、講師との情報交換、保護者との連携、学生とのコミュニケーション・指導についていま一度振り返るとともに、出願時期が遅い学生について業界や職種等について丁寧に伝えて入学後にギャップが出ないように、とくに留意する必要があります。

評価項目 4. について

卒業生の活躍および卒業後のキャリア形成への効果の把握につきましては、卒業生の就職先企業さまからの情報や、学科担当との関係性による一部

の卒業生の断片的な情報に限定されており、学校が体系的に卒業生の現状についてリサーチできているとは言えない状況でした。学園の新しい取り組みとして、当該年度より「ネクスト・ステージ・アカデミー」という、卒業生のキャリアを生涯サポートするしくみが立ち上がっております。本校といたしまして、このしくみを卒業生に周知し、卒業生が活用できるよう進めてまいります。

② 今後の改善方策

学生が将来役に立つ資格、企業側からみて必要性の高い、学生全員に受験させる資格を毎年精査し、対策授業を時間割に組み込んでおります。合格率が低い資格・検定につきましては、受験時期の見直し、講師との改善策協議→ゼミの実施など改善策、講師の一部変更などし、改善するよう努めております。全国平均合格率を超えられないものにつきましては、抜本的で具体的な施策を打つ必要があります。

合格率につきましては、学科に偏っている面があり、資格の取得目的を学生に周知し、理解させ、モチベーションマネジメントをホームルームなどで継続していく必要があります。改善すべき資格は学科担当と担当講師、学務責任者を交えて、検定ごとに改めて課題を洗い出し、具体的な改善を図っていきます。

本校卒業生の業界での活躍こそが、学校評価の根幹でなければならないと考えております。就職した企業で勤続して成長し、どのようなキャリアを積み重ねてどのような評価を受けているか、卒業生の動向を経年的に把握していくことが必要です。卒業生の状況を組織としていかに把握し、卒業生情報を共有していくか、学園「ネクスト・ステージ・アカデミー」のしくみと合わせて検討してまいります。

③ 特記事項

2023年度就職率（求職者に対する）100%を10年連続達成いたしました（卒業者に対する就職率96.9%、内定者のうち業界内定率91.7%）。1年次からの「就職指導」授業、11月末「業界EXPO」、早期選考・推薦枠の獲得、インターンシップの促進、学内会社説明会等の枠組みに加えまして、学科担任と就職指導担当が連携して学生1人ひとりをねばり強くサポートしてきた結果だと考えております。

学生の状況把握につきましては、定期的な個人面談に加え、担任が「欠席管理表」で学生1人ひとりの遅刻・欠席を厳密に管理して学生の状況を把握、学生から担任に遅刻・欠席を事前連絡、成績に組み込まれている出席点含めて単位認定をしております。非常勤教員からも授業での学生の変化や違和感について担任にフィードバックしてもらえるコミュニケーションを学校として促進、遅刻・欠席が重なった場合は保護者連絡を徹底しております。

退学防止に向けましては、経済的な理由やメンタル要因などのやむを得ない理由はともかく、「進路変更」「学習意欲の低下」といった退学理由の低

減を図っていかなければなりません。入学検討時より自らがめざす業界でどのように働くキャリアにイメージすることや、AO プレスクール（入学前授業）の出席率を上げる施策を併せて行い、入学後のギャップを埋め、学習意欲を高め、担任やクラスメイトとの関係性づくりに注力することが重要と考えております。欠席しがちな学生につきましては、週1回の担任ミーティングで理由・背景含めて対応を共有するとともに、場合によっては担任に加えてリーダーや学務責任者が学科に関係なく対応しています。

学生の精神的な悩みについて対応できるよう、半期ごとに1級キャリアコンサルティング技能士/公認心理士によるメンタルヘルスセミナーを実施。学園で設置している「なんでも相談室」のスクールカウンセラーと連携。新入生保護者会でも、保護者向けメンタルヘルスセミナーを実施し、ご理解と連携をお願いしています。

上記これまでの体制に加えて、日々の興味関心がもてる授業・実習、自分の成長が感じられる教育イベントや学校行事等をより有機的に機能させていかなければならないと考えております。学園が掲げる「5つのプロフェッショナル力」「5つの人間関係力」が身につく実感のあるカリキュラムを整えてまいります。

(5) 学生支援

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	1. 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	3	2
2. 学生相談に関する体制は整備されているか	4	3	2	1
3. 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	3	2	1
4. 学生の健康管理を担う組織体制は整備されているか	4	3	2	1
5. 課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
6. 学生の生活環境への支援はおこなわれているか	4	3	2	1
7. 保護者と適切に連携しているか	4	3	2	1
8. 卒業生への支援体制はあるか	4	3	2	1
9. 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	2	1
10. 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	3	2	1
11. 関連分野における業界との連携による卒後の再教育プログラム等を行っているか	4	3	2	1

① 課題

評価項目8. について

卒業生の再就職相談については、依頼があれば担任や就職指導担当が個別で対応しています。また、学園で立ち上がっております「ネクスト・ステージ・アカデミー」を周知し、本校卒業生にとっても恩恵があるよう進めたいと考えておりますが、具体的な支援は次年度以降本格的になる予定です。

評価項目9. について

社会人が働きながら学べる教育環境の整備は予定しておりません。

評価項目10. について

地域の各高校から、面接指導や模擬授業等の依頼があった場合は、本校就職指導担当や広報職員が出向いて職業ガイダンスや講座を実施しておりますが、回数としては限られております。とくに、授業を持っている教員が専門授業のために高校に訪問することは、スケジュール調整が難しいケースが多い状況です。

評価項目 1.1. について

卒業後に関しまして「関連分野における業界との連携による卒後の再教育プログラム等」は実施していない現状です。

② 今後の改善方策

卒業生の支援に関しましては、学園で立ち上がっております卒業生支援「ネクスト・ステージ・アカデミー」を、創立以来 8,000 名以上を輩出してきた本校卒業生全体にとって恩恵があるよう周知いたします。メニューの 1 つである経営学修士 (MBA) 大学院進学コースにつきましては、次年度より本格稼働する予定となっております。

高校との連携によりますキャリア教育・職業教育については、高校からのご依頼については、できるだけ積極的に対応するようにいたします。

③ 特記事項

進路・就職への支援体制につきまして、本校では取得単位外を含めまして就職活動支援に力を入れており、2023 年度で求職者に対する就職率 100% を 10 年連続達成いたしました。1 年次 11 月の就職イベント「業界 EXPO」を軸に就職内定が決定するまで、入学当初より週 1 回授業を実施。必要に応じて保護者へ連絡し、学校と家庭とが協力して学生サポートにあたることを大方針としております。

学生の経済的な支援につきましては、入学前の A0 特待生制度 (特待生には学費減免)、学費の分納制度、日本学生支援機構奨学金や修学支援新制度に関する周知・説明・申請・報告、進級前の校友会学費支援制度があります。日本学生支援機構奨学金の緊急申請についても臨機応変に対応し、修学支援新制度/給付型奨学金の対象校として、サポートしております。

日々の学生を支援する担任活動で共有すべき事例については、毎週の職員ミーティング/担任ミーティングで協議し、当該学生にとってよりよい対応に向けて意見を出し合い、担任以外も支援に加わるなどしております。

学生の健康面支援は、定期健康診断を毎年実施しデータ化。学生や教職員のメンタル面を支援する「なんでも相談室」とは、集団守秘義務のもと学務室が連携し、学生の状況把握と退学防止に努めています。

2023 年度の課外活動といたしましては、学生委員が中心となって企画し、全員が参加する学園祭、スポーツ大会に加えまして、新入生歓迎会やボウリング大会などを初めて実施、学科を超えた交流を図りました。11 月には、名古屋市獣医師会の外郭団体である名古屋市人とペットの共生サポートセンターが主催する「猫の譲渡会」に、栄という立地を活かして教室を会場として提供、学生と教員たちがボランティアスタッフとして当日サポートいたしました。

(6) 教育環境

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	1. 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	2
2. 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1
3. 防災に対する体制は整備されているか	4	3	2	1

① 課題

評価項目 2. について

職業実践専門課程認定校として、各学科で学内での実践的な実習のための設備は相応の予算を取って毎年整備しております。

インターンシップに関しましては、IT ビジネス学科、愛玩動物看護学科の単位認定制の連携企業とのインターンシップのほか、他学科につきましても1年次夏以降、就職活動につながるインターンシップを積極的に促進しています。

海外研修につきましては、アメリカロサンゼルスを企画し、説明会まで行いましたが、円安の影響や燃料の高騰があり安価な価格設定ができずに参加希望が少なく、催行できませんでした。

評価項目 3. について

非常時における備品の確保や災害時の緊急対応への整備が充分ではないと認識しております。

避難訓練は、校舎ごとに2回に分けて実施いたしました。

② 今後の改善方策

海外研修につきましては、2019年度まで実施してまいりましたとおり希望者対象の海外研修を計画していく所存ですが、渡航先や日数を変更することを含めまして金額設定を工夫し、学生が参加しやすい状況を創出したいと考えております。

学生たちのグローバルな視点を広げる点に関しましては、「オンライン留学プログラム」を1年生対象に年1回行っております。アメリカカリフォルニアにあります本学園拠点ロサンゼルス・アカデメイアと全国ビジネス姉妹校4校をつなぎ、7コンテンツをインタラクティブな形で実施。講師プロフ

ィールを事前に開示し、事前学習ができる環境など、昨年度より改善いたしました。

防災に関しましては、教職員全員が危機管理意識をより高め、避難訓練を年1回実施するのみならず、非常時備品の課題につきまして、総合事務局と学園名古屋姉妹校4校と協議していかなければなりません。

③ 特記事項

施設・設備に関しましては、安全・快適な環境でより効果的な授業が実施できるよう、毎年度設備計画を作成し、校舎や実習室・設備の改修を行い、安全性・利便性・清潔感の向上に努めております。2023年度施設・設備につきましては、①2号館教室照明LED化(第1期) ②4号館屋上防水工事 ③2号館防犯カメラ増設 ④ITビジネス学科IT機器/IT実習室改修ならびにデスクトップPC入れ替え ⑤ドッグトレーニング実習室改修 ⑥ペットビジネス学科・動物看護実習備品追加 を計画し、学習環境を整備いたしました。①に関しましては、次年度も引き続き進めてまいります。

各施設・設備につきましては、平面図や備品台帳、教室稼働表など書類で管理しております。業界企業とのパートナーシップのもと、分野に即した実践的実習授業を校内で実施できる環境整備にこれからも努め、学生の意欲とスキルを向上させ、成長へとつなげてまいります。

非常時の避難経路等は、避難訓練の実施とともに、常勤教職員のみならず、非常勤講師、クラス単位で周知しております。

(7) 学生の受け入れ募集

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	1. 高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組を行っているか	4	3	2
2. 学生募集活動は、適正に行われているか	4	3	2	1
3. 学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確につたえられているか	4	3	2	1
4. 学納金は妥当なものとなっているか	4	3	2	1

本校は、一般社団法人愛知県専修学校各種学校連合会の会員で、募集活動に関わる諸規則を尊重し、適切な募集活動に努めております。学生募集活動につきましては、「入りを計り、出るを制す」という学園の建学の精神のもと、高校や設置会場でのガイダンスに広報職員が出向き、年間数百人の高校生ならびに高校の先生方に本校や業界について情報提供しております。一人でも多くの入学検討者にオープンキャンパスに来校してもらいたい旨お伝えし、学科担当や先輩在校生と接したうえで出願、A0 プレスクール（入学前授業）に参加のうえ入学してもらう方針としております。

職業実践専門課程認定校として、業界の現場に即した専門知識・技術の向上とともに、社会人基礎力、教職員やクラスメイト、先輩後輩とのふれあいを提供し業界就職を果たすこと、また、業界社会人として成長して活躍し、学生自身の人生を拓いてもらうこと、業界で活躍できる人材を輩出することで各業界が繁栄し、社会に貢献することが本校のミッションであると考えています。

本校の入学資格は、高等学校卒業資格を前提としたうえで、過去の学業成績よりも学ぶ意欲や目的意識を選考基準として重視しており、これから新しい分野に挑戦する初心者に対して入学の門戸を大きく開いています。本校の教職員は、募集活動を「入学検討者に対する進路サポート」と心得ており、①印刷物・web サイト・高校ガイダンス等を通じた、有用かつ新鮮な情報提供 ②おもにオープンキャンパスでの模擬授業を通じた技術・知識の提供、入学相談 ③入学検討者の疑問や不安を解消するため、電話やメール、SNS 等を通じたカウンセリングを行っています。遠方等で来校しづらい方には、無料送迎バスの運行やオンラインでの入学相談などにも対応してきました。

入学者の約9割が利用するA0入学制度におきましては、募集活動と教育のシームレス化を実現すべく、「A02.5教育プログラム」というコンセプトのもと、入学前授業（A0 プレスクール：入学前7月～3月で計9回）を実施。専門分野の学習へスムーズな移行と入学後へのモチベーションアップ、将来のクラスメ

イトとの交流を目的としております。また、教育効果として、企業と連携した実践的な授業内容、設備、就職サポート体制のほか、OB・OGの活躍、就職先一覧などについて、募集活動のなかで情報提供しています。

学納金は名古屋地区の同業他校と比較して妥当であり、提供するカリキュラムや教育環境・設備の質、社会人基礎力の向上のための授業の配置や教育イベントの充実などから、学納金に見合った価値を提供していると考えております。

(8) 財務

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	2
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	3	2	1
・財務について会計監査が適正におこなわれているか	4	3	2	1
・財務情報公開の体制整備はできているか	4	3	2	1

1. 財務管理

学生納付金は帰属収入の90%以上を占める最大の財源ですが、多様な学生ニーズに応えるべく教育内容の充実を図り学生数確保に努めるとともに、学科・コース構成の再構築、業界企業さまとの連携、施設設備の充実等、財源を効率かつ最大限に活かせるように努めております。

学校運営に関わる予算につきましては、各校・各学科にて年度予算を編成。具体的な各費目の大枠について、あらかじめ検討・承認された予算費目に基づき、備品購入や施設設備の充実・改修などに対する相当額を各校で予算化し、学園本部会議にて最終検討のうえで概算予算を決定しております。

継続的な教育の遂行には、確固たる財務基盤の確立が必須条件であります。学生募集に力を尽くすと同時に、細かく経費の削減に努めてまいります。

予算執行については、学園の経理規程・予算管理規程に従い承認された予算各費目の枠内で、執行担当者が稟議書・発注申請書を起票し、事務長、学校長、名古屋事務局長、また金額により学園本部の承認を受けて執行しております。予算と実績の差異は教務事務が毎月確認し、予算実績管理の精度向上に努めています。

2. 会計監査と情報公開

私立学校法の規定に基づき、学園法人本部の所管で監事により業務・財産状況の監査が行われており、会計年度終了後2か月以内に理事会及び評議委員会で決議を受けています。また、指摘事項があった場合は適切に是正措置を講じております。

財務諸表においては、学園のホームページで公開するとともに、国の修学支援制度/給付型奨学金の要件を満たす機関として適切な財務基盤を有する点を踏まえまして情報公開しております。

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	3	2
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	3	2	1
・自己評価の実施と問題点の改善をおこなっているか	4	3	2	1
・自己評価結果を公開しているか	4	3	2	1

1. 法令・設置基準等の遵守

本校では、専門学校の教育に関わる各種の法令及び専修学校設置基準等を遵守し、適正な運営を行っております。また、教職員・講師に対しては、年度初めの講師会で法令遵守に関する啓発を実施しています。在学生に対しては、毎年度初めのオリエンテーションにおいて「学生便覧」を配布、学習に関する諸手続き、学生生活、喫煙やSNSに関する禁止事項等につきまして法令遵守の観点から指導しています。

法令遵守および業務の適正な執行等の徹底を図ることを目的とし、学園本部には、弁護士および公認会計士をメンバーとするコンプライアンス委員会が設置されています。通報窓口が周知され、学園として法令違反に関する情報を的確に収集するとともに、専門家の知見を踏まえた対応をとる体制としております。また、責任者対象のハラスメント講習会を年1回実施しています。

個人情報保護につきましては、学校法人全体として各種情報の保護を図っています。「個人情報保護法に関する教職員規定内規」を定め、個人、部署ごとに情報の漏えいがないよう取り組んでおります。また、講師会において非常勤講師にも注意喚起を行い、個人情報の保護に努めております。

2. 自己点検・自己評価

本校では毎年度、自己点検・自己評価（本報告書）し、本校の運営・教育改善に役立てることを目的に今後も継続して実施してまいります。定期的な確認を行うことで発見や気づきにつなげられるよう、引き続き自己評価のレベル向上に努めます。一環として「学生アンケート」（授業評価や学生生活に関する項目を含む）を、全授業科目対象に年1回実施。学校長、学務責任者、各学科担当が分析・共有を行い授業の質を担保し学校運営に反映するとともに、非常勤講師に適切なフィードバックをすることでそれぞれの授業の改善に役立てております。学生生活に関する学生からのコメントは精査し、施設・設備の快適性・利便性など、学生満足度の向上のために設備計画等に反映しています。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	1. 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行なっているか	4	3	2
2. 学生ボランティア活動を奨励、支援しているか	4	3	2	1
3. 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	3	2	1

① 課題

評価項目3.について

地域に対する公開講座や教育訓練等の受託については、社団法人日本ペットマッサージ協会や社団法人日本メディカルアロマセラピー協会検定、名古屋市の外郭団体主催「猫の譲渡会」、ペットビジネス企業主催トリマー向けセミナー等の会場として教室や実習室を提供しておりますが、地域に対する公開講座等の受託は行っておらず地域に対する学校としての貢献につきましては、まだまだ足りないと認識しております。

② 今後の改善方策

学校の施設を活用した地域貢献につきまして、中部圏の中心である名古屋栄に立地する本校のメリットを活かし、地域に対する公開講座への会場提供等を機会があれば積極的に検討していきます。

③ 特記事項

11月には名古屋市人とペットの共生サポートセンター主催、譲渡ボランティアによる「猫の譲渡会」に会場として提供し、学生と教員が会場スタッフとしてボランティアでサポートいたしました。今後も、立地の利便性を生かした社会貢献・地域貢献を機会があれば推し進め、学生が自発的にボランティア活動を自主的に行える機会を提供していきます。また、学園祭など公開するイベントに関しましては、地域のみなさまに来校いただけますよう早めから計画してまいります。

(11) 国際交流（必要に応じて）

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	1. 留学生の受け入れ・派遣について戦略を持っておこなっているか	4	3	2
2. 留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4	3	2	1
3. 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4	3	2	1
4. 学修成果が国内外で評価される取り組みをおこなっているか	4	3	2	1

① 課題

評価項目 1. について

2023年度は IT ビジネス学科に 3 名、総合ビジネス学科に 1 名の留学生が入学し、全員が進級しております。門戸を開くといった点では、入学人数を増やせる戦略をもう少し取っていきたいと考えております。

② 今後の改善方策

入学前、入学後の学生ビザ確認・更新に際しては、適切に手続きが進められるよう担当職員を置いて対応し、名古屋出入国在留管理局より「適正校」と選定されています。

2023年度に IT ビジネス学科 2 年に進級したマレーシア籍 1 名は、国内の IT 企業への就職を果たしました。台湾籍 1 名は卒業しましたが、家業を継ぐために自国に戻るという結果となりました。

留学生につきましては、学習意欲や国内就職意欲の高い者を受け入れるという体制としており、2024年度は 4 名を受け入れております。職業教育機関である専門学校として留学生の受け入れに果たす役割は大きいと認識し、次年度につきましても意識の高い留学生を積極的に受け入れ、進級、国内就職をめざしてもらえよう進めてまいります。